令和三年度

入学試験問題

国語

注意

・問題は十四ページにわたって印刷してあります。
・試験時間は五〇分です。
・声を出して読んではいけません。
・作問のため本文にふりがなをつけた部分があります。
・答えは、問題の指示に従って、解答らんの決められた場所に濃く、はっきりと書きなさい。
・答えを直すときは、きれいに消してから、新しい答えを書きなさい。
・字数指定のある問いはすべて、句読点・記号も一字と数えるものとします。
・答えはすべて別紙解答用紙に明確に記入し、解答用紙だけを提出しなさい。

法人学校 東洋大学

東洋大学京北中学校

1

次の問いに答えなさい。

問一　ぼう線部に相当する漢字をふくむものを、**ア**～**エ**から一つずつ選び、記号で答えなさい。

(1)　生地を**セン**料にひたして色をつける。

ア　中性**セン**剤で食器をきれいにする。

イ　温**セン**旅館に宿泊する。

ウ　運動会の代表**セン**手になる。

エ　伝**セン**病の予防接種を受ける。

(2)　価値**カン**の違いが争いの原因となる。

ア　**カン**情をおさえて話す。

イ　物語が**カン**結する。

ウ　アサガオの**カン**察日記をつける。

エ　病人を**カン**病する。

(3)　クラスの出し物について**トウ**論する。

ア　前向きに検**トウ**する。

イ　砂**トウ**の甘さを引き立てる。

ウ　天下を**トウ**一する。

エ　二〇〇〇年代初**トウ**の出来事。

(4)　すぐれた**シ**質を持つ。

ア　週刊**シ**を購入する。

イ　勉強をして**シ**格をとる。

ウ　**シ**葉末節にこだわる。

エ　**シ**会をつとめる。

(5)　努力が**ムク**われる。

ア　病気で**ナ**くなった人。

イ　老人ホームを**ホウ**問する。

ウ　新しい**ホウ**則をみつける。

エ　**ホウ**道の自由を守る。

(6) 目にウツるものすべてが美しい。
ア 電車でイ動する
イ DVDを借りてエイ画を見る。
ウ ノートに書きウツす。
エ イ服を身につける。

(7) すべてショウ知のうえで行動する。
ア 注文をウケタマワる。
イ 合ショウコンクールに出る。
ウ パーティーにショウ待する。
エ 電子辞書を落としてキズがつく。

(8) 判断をユダねる。
ア 物音がしたので周イを確認する。
イ イ戸水をくんで運ぶ。
ウ クラスのイ員長をつとめる。
エ 自分のイ見をまとめて発表する。

問二 □に入る数の合計が最も多いものをア～エから一つずつ選び、記号で答えなさい。

（例） 鶴は□年亀は□年→千・万＝一一〇〇〇

(1)
ア なくて□癖　イ □束□文
ウ 桃栗□年柿□年　エ □転び□起き

(2)
ア □害あって□利なし　イ □日坊主
ウ □つ子の魂□まで　エ □人□色

(3)
ア □寸の虫にも□分の魂　イ □寒□温
ウ 朝□暮□　エ □死に□生を得る

(4)
ア □苦□苦　イ □発□中
ウ □方□方　エ □捨□入

問三　□に入る漢字として適切なものを**ア**～**コ**から一つずつ選び、記号で答えなさい。

(1)　笑う門には□来たる
（どんなにつらくても、笑っていれば幸せがやってくるということ。）

(2)　□に短したすきに長し
（物事が中途半端（ちゅうとはんぱ）で何にも使えず、役に立たないこと。）

(3)　□は友を呼ぶ
（気の合う人や似ている人は、自然と集まって仲間になるものだということ。）

ア　春　　**イ**　猫（ねこ）　　**ウ**　福　　**エ**　災　　**オ**　帯

カ　紐（ひも）　　**キ**　悪　　**ク**　種　　**ケ**　神　　**コ**　類

2

次の文章を読んで、問いに答えなさい。

次の日から、わたしはひとりになった。教室でも部活でも、誰ともつきあわなくなった。ときどき梢が話しかけようとしてくるのがわかったけど、わたしは頑なに気づかないふりをした。

朋華も高梨さんも沢村さんも、わたしに関わってはこなかった。関わりあいを拒絶する空気を、わたしが発していたせいかもしれないけど、もともと彼女たちは梢の友達だ。梢と仲違いをしたわたしと仲よくする理由はない。

せいせいした。そんなふうに強気でいられたのは、最初のうちだけだった。

清凜女子学院に通っていたころは、友達がたくさんいた。こっちに来てからも、梢がすぐに仲間の輪に入れてくれた。自ら望んでひとりになってはじめて、わたしはひとりでいることの寂しさを知った。

ひとりぼっちのまま数日が過ぎて、七夕の日になった。公立の中学でも、七夕の給食には七夕ゼリーが出るものらしい。それは紙製のカップに入った白いゼリーで、トッピングに星型の小さなゼリーが二個、申し訳程度に載っていた。

「……安っぽい」

わたしは誰にも聞こえない声でつぶやいた。それから、去年までの七夕ゼリーは、と思いだそうとして、もういいかげん嫌になった。

どんなに強く願ったところで、どうせもうわたしは、清凜にはもどれない。だからこうやっていちいちあのころといまをくらべるのは、ただ無意味につらくなるだけだ。

わたしはため息をついて、食パンに塗るイチゴジャムの小袋を開けようとした。するとそのとき、梢が「ねえ」とわたしに声をかけた。

話をする気はなかったのに、反射的にそちらを向いてしまうと、梢は遠慮がちに言った。わたしの七夕ゼリーを指差して。

「それ、くれない？」

わたしは唖然として梢の顔を見つめた。①梢は上目遣いにわたしの返事を待っていた。

驚きとあきれがいらだちに変わり、けれど嫌だと返事をするのも癪で、わたしはゼリーのカップを乱暴に梢の給食のトレイに置いた。ありがと、と梢が言ってきたけど、わたしはそれを無視した。

まったく、あきれてものも言えないとはこのことだ。いくら食い意地が張っているといったって、よりにもよってわたしの給食をほしがるなんて。

胸の中で軽蔑の言葉をならべながら、イチゴジャムの袋を千切ると、いきおいよく飛びだしたジャムがトレイを汚して、頭がカッと熱くなった。けれど怒りはすぐに冷えてしぼまり、同時にわたしの心も暗く落ちこんだ。

……どうして、あんなつっけんどんにわたしたりしてしまったんだろう。気づけばわたし

はそう後悔していた。しょうがないなあ、と苦笑いでも浮かべて手渡していれば、それをきっかけに梢と仲なおりできたかもしれないのに、と。

強がってごまかすことはもうできなかった。梢と仲なおりがしたい。朋華たちともまた仲よくつきあいたい。それはわたしの本心だった。

たしかに梢はわたしが隠していたことをばらした。だけど、もともと悪いのはわたしだ。最初の理由がなんだって、梢はずっとわたしにやさしくしてくれた。わたしをひとりにしないでくれた。なのにわたしはつまらない意地を張って見栄を張って、梢のことを傷つけて……。

②そんなことはもうとっくにわかっていたのに、それでもまだ梢のことを避け続けている自分に、心底嫌気が差した。給食に手もつけず、机の下でぎゅっと両手を握りしめていると、騒々しいまわりの声が急速に遠ざかっていくのを感じた。

自分が泣きそうになっているのがわかった。けれど涙があふれる寸前で、「美貴」とわたしの名前を呼ぶ梢の声が耳に届いた。

梢のほうを向いたときには、無意識にまた不機嫌な表情になってしまっていて、わたしは心の中で自分をなじった。だけどわたしの不機嫌顔は、梢の持った皿を見た瞬間、驚きで塗りつぶされていた。

その皿のまんなかには、カップから丁寧に取りだされた七夕ゼリーが載っていた。しかもゼリーのまわりは、たくさんの星型のトッピングで飾られ、皿にはイチゴジャムでお洒落な模様が描いてあった。

その模様とトッピングのデザインには見おぼえがあった。勉強会のときに見た、高級スイーツの写真とそっくりだったのだ。

「うおっ、なんだその豪華ゼリー！」

足立くんが驚きの声をあげた。すると朋華が横から、「すごいでしょう、梢シェフのスペシャル七夕ゼリーよぉ」と自慢する。

「美貴、これ、美貴に……」

梢が［　　］ゼリーの皿を差しだしてきた。

「えっ、なんでわたしに……」

「その、この前のお詫びにっていうか……美貴、すごく怒ってるだろうから、どうしたら許してもらえるか、みんなに相談したんだ。そしたら朋華がアイデアを出してくれて……」

梢が横目でとなりの朋華を見た。わたしもつられて朋華に視線を移すと、朋華はしたり顔で言った。

「ほら、お金で買ったものをあげるのもなんか違うでしょ、この場合。それでいろいろ考えたんだけど、このあいだ美貴があの高級スイーツの写真をすごく熱心に見てたから、こういうのなら喜んでくれるんじゃないかなあ、って思って」

わたしは言葉を失ったまま、再び梢の顔を見た。梢は目を伏せて、わたしに謝ってきた。

「この前は、ごめん。美貴がつらいのはわかってたのに、勝手にいらついて、美貴が秘密にしておきたいことをばらしたりして……」

「違う、梢はなにも悪くない。なのにお詫びなんてもらえないわ」

わたしはとっさにそう言っていた。けれど梢は、「いいから、あたしが美貴にあげたいの。だから、はい」と、ゼリーの皿を差しだしてくる。

わたしはためらいがちにその皿を受け取った。ゼリーを飾る星型のトッピングは、全部で十個あった。トッピングはひとつのゼリーに二個。梢と朋華のゼリーからは、トッピングがなくなっていた。さらにとなりの班に目をやると、高梨さんが恥ずかしそうにほほえみ、沢村さんがいつもの無表情のまま親指を立ててみせた。それを見たわたしは、もう涙をこらえきれなくなってしまった。

「どうよ美貴、こんなデザート、さすがに前の学校でも出なかったんじゃないの？」

朋華のおどけた科白に、わたしはうん、とうなずいた。当たり前だ。こんな特別なメニュー、どんな学校の給食だって、食べられるわけがない。

「ありがとう……それに、ごめんなさい」

ずっと言えなかったその言葉が、自然とわたしの口からこぼれた。にじんだ視界で梢の顔を見つめると、③梢はほっとしたような笑みを浮かべていた。

足立くんがわざとらしく聞いてきた。

「いやあ、すっげえなあ、それ。おれのと交換しねえ？」

「……だめ、これは絶対あげない」

涙まじりの笑顔でこたえると、わたしはゼリーをスプーンですくい、イチゴジャムのソースをつけて口に運んだ。

甘酸っぱい味と、ひんやりした食感が口の中に広がる。その味と食感を大切に味わってから、わたしは「おいしい」とつぶやいた。④この学校に来てから、給食をおいしいと感じたのはこれがはじめてだった。

きょうの部活が終わったら、とわたしは思った。きょうの部活が終わったら、帰り道に公民館に寄って、七夕飾りの短冊の願いごとを書きかえよう。それから図書室で、みんなにすすめてもらった本を借りることにしよう。

⑤七夕ゼリーのまわりに飾られた星型のトッピングを見つめて、わたしはそう心に決めた。

（如月かずさ『給食アンサンブル』光村図書出版）

問一　ぼう線部①「梢は上目遣いにわたしの返事を待っていた」とありますが、このときの梢の気持ちとして適切なものを**ア**～**エ**から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　どうしても食べたかった七夕ゼリーを確実にもらえるよう、美貴にねだるような思いでいる。

イ　たとえ安っぽくても甘いものには目がない美貴が、ゼリーを本当にくれるかどうか心配している。

ウ　美貴に許してもらいたい一心で朋華たちと考えた計画がうまくいくよう、祈るような思いでいる。

エ　ずっと意地をはっている美貴の方から自然と謝れるような雰囲気を作ろうと、とりつくろっている。

問二　ぼう線部②「そんなこと」が指している内容として適切なものを**ア**～**エ**から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　悪気がなかったとはいえ転校の事情を知ることとなってしまった梢から、ずっと憐れみを受けていたということ。

イ　清凛では友達がたくさんいたのに転校先ではずっとひとりぼっちで、これ以上その寂しさには耐えられないこと。

ウ　悪いのは梢ではなく自分自身であり、強がった態度をとっていても仲なおりがしたいと思っているということ。

エ　まわりの人に対して無意識に感じの悪い態度をとってしまうのは性分であり、努力して直さないといけないこと。

問三　［　　］に入ることばとして適切なものを**ア**～**エ**から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　おずおずと

イ　どうどうと

ウ　ふらふらと

エ　にっこりと

問四　ぼう線部③「梢はほっとしたような笑みを浮かべていた」とありますが、その理由の説明として適切なものを**ア**～**エ**から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　張りつめていた場の空気を足立くんがさりげなくなごませてくれたから。
イ　自分のせいで怒らせてしまっていた美貴と無事に仲なおりができたから。
ウ　あらかじめ皆で打ち合わせていたとおりの発言を朋華がしてくれたから。
エ　高級スイーツの写真のとおりに仕上がり美貴を驚かすことができたから。

問五　ぼう線部④「この学校に来てから、給食をおいしいと感じたのはこれがはじめてだった」とありますが、その理由の説明として適切なものを**ア**～**エ**から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　どこの中学校であっても、七夕ゼリーは一年に一回しか出されない特別で貴重なメニューだから。
イ　安っぽいと思ったゼリーが、梢たちの手で見事に高級に見えるデザートに仕上がっていたから。
ウ　梢や朋華たちのアイデアによって、味や食感まで別物のデザートに作りかえることができたから。
エ　美貴のことを思う梢や朋華たちの温かい気持ちがたくさんつまった、特別なメニューだったから。

問六　ぼう線部⑤「七夕ゼリーのまわりに飾られた星型のトッピングを見つめて、わたしはそう心に決めた」とありますが、美貴の決意として適切なものを**ア**～**エ**から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　自分の口に合わない給食だと決めつけずに、これからは盛り付けを工夫（くふう）することでみんなとおいしく食べるようにしていこう、という決意。
イ　この転校先の学校に自分からもっと積極的になじむ姿勢を持ち、梢たちのやさしさを素直（すなお）に受け入れられるようにしよう、という決意。
ウ　これから先梢たちとぶつかることがあっても、もう意地を張ったりせずに自分からちゃんと謝る姿勢を持つようにしよう、という決意。
エ　清凜にもどりたいという願いは、自分だけの大切な気持ちとして誰にも知られないようそっと胸の奥（おく）にしまっておくようにしよう、という決意。

3

次の文章を読んで、問いに答えなさい。（なお、出題にさいして見出し、出典の一部を省略しています。）

大学で学ぼうとしているみなさんに私から伝えたいことは、一つです。それは、世界は書き込み可能（Writeable）であるという感覚を持ってほしい、ということです。

「書き込み可能」とは「編集してよい」ということ。あなたの手によって、よりよく作り変えることが可能だということです。

A、子供のころにこんな経験をしたことはないでしょうか。みんなでかくれんぼをしたい。でも一人だけ学年が下の子がいて、走るのが遅く、すぐにつかまってしまう。その子がかわいそうだし、遊びも盛りあがらない。

そんなとき、どうしたでしょうか。みんなで相談して、たとえばその子だけ、みんなより早めに逃げてよい、というハンディをつけたりしたのではないでしょうか。あるいは、二、三人のグループを作って、そのグループ単位で逃げることにしてもいいかもしれない。

B、全員が楽しく遊べるように、かくれんぼのルールを少し書き換えて遊んだはずです。

実際の社会も同じです。この世に完璧な仕組みやルールはありません。アリが巣に住みながら絶えずそれを直し続けているように、私たちの生きる社会は作り途中なのです。どうしたら世界をもっとよりよいものにできるか。そのために自分は何ができるか。その前向きな力が、今の日本には圧倒的に足りていません。

「書き込み可能」というイメージにダイレクトに結びつく、身近な例を一つあげましょう。

インターネットに接続したことのある人なら、一度は①ウィキペディアのページを訪れたことがあると思います。あの、オンラインの無料で見ることのできる百科事典です。

みなさんは、ウィキペディアの記事がどんなふうに作られているのか知っていますか？ウィキペディアの記事は、従来の百科事典とは異なり、その項目についての専門家が執筆しているわけではありません。中には専門家による記述もあるでしょうが、基本的には誰でも書き込むことができる、編集自由な場がウィキペディアです。まさに「みんなの事典」なのです。

ですが、この「みんな」とは誰でしょうか。実はある調査によれば、ウィキペディアを編集しているのは、九割が男性なのです。ウィキペディアの編集に参加する人を「ウィキペディアン」と言いますが、女性ウィキペディアンはごくごく少数なのです。

そのせいで、ウィキペディアの記事にはしばしば偏りが見られます。たとえば英国ウィリアム王子の結婚に関する記事。お相手のケイト・ミドルトンが着ていたウェディングドレスについての記事が作られたのですが、その日のうちに削除依頼が出されました。それどころか「バカげている」などという強い非難が起こったそうです（北村紗衣「ウィキペディアが、実は「男の世界」だって知っていましたか」現代ビジネス）。

私自身はケイト・ミドルトンのファッションについて、それほど関心があるわけではありません。ですが、彼女がどんなドレスを着たかは、決してトリビアル[*1]な話題とは言えないと思います。少なくとも、ウィキペディアに膨大な記事があるコンピューター関連のマニアックな話題に比べたら、一般的な関心は高いはずです。にもかかわらず、それはおそらく女性向けの軽薄なトピックだと判断されてしまったのです。

C 、同じようなことは学問の世界でも起こっています。

私は今から一〇年ほど前に第一子を出産しました。出産の経験は私にとって大きな衝撃でした。自分の体が自分でも知らなかったような爆発的なパワーを発揮し、一つの命を自らから切り離すのです。出産後の痛みに耐えながら、この経験について、いつか言葉にしてみたいと思いました。

私は過去の哲学の文献にあたりました。哲学といえば「人間とは何か」という普遍的な問いに立ち向かう、古代ギリシャから続く歴史のある学問です。

ところが、です。哲学の中には、出産の経験についての記述が、ほとんど出てこないのです。理由はもう明らかですね。哲学者のほとんどが男性だからです。哲学は普遍を標榜[*2]していながら、人類の約半分が経験する可能性のある一大事について、ほとんどスルーしているのです。

冒頭で、私は障害のある人の感じ方について研究している、と述べました。実は、私が障害のある人について研究しようと思ったきっかけの一つが、この出産後に経験した②哲学への不信なのです。哲学は人間を扱っているけれど、そこで言う「人間」に、自分は入っていないのではないか。そもそも「普遍的な人間」など存在するのか。本当は、一人ひとり異なる具体的な人間がいるだけではないのか。

私は哲学が前提にしてきた「人間」像を、もっと別の角度からとらえてみたい、と考えました。そこで、障害者という、スタンダードとは異なるとされる体を持つ人について考えることを始めたのです。それはとりもなおさず、哲学がこれまで前提にしてきた「人間」像に書き込みをする作業でした。

これは単に哲学という学問をよりよいものにするための書き込みではありません。哲学がつむぎだす「人間とはこういうものだ」という理解が、私たちの社会のさまざまな場面に影響を与えうるからです。もちろん、私一人ができることは微々たるものです。でも気づいた人が書き込みをしなければ、人間が考える「人間」は、永遠にアップデートされることはありません。

この作り途中の、まだまだダメなところがたくさんある社会に書き込みをする。そのために必要な、知識と思考力と意欲を、大学はあなたに与えます。あなたを、私たちと一緒に社会を作る同志にするためです。

するべき仕事がたくさん残っています。特に、女性であるみなさんには。

[*3]フェミニストになれと言いたいわけではありません。あるいは社会を変える政治家にな

れ、アクティビスト[*4]になれ、と言いたいわけでもありません。

ただ、何か違和感を持つことがあったら、その背景を調べ、あなたに可能な書き込みをしてほしい。どんなに小さなことでも構いません。お客さんとして社会を傍観しているのではなく、プレイヤーとしてフィールドに下り、参加してほしいのです。

そうはいっても、いまの時代に「書き込み」をするのは勇気がいることかもしれません。ちょっと目立ったことをすると、SNS等で叩かれたり、批判されたりするからです。

いま、私たちが生きるのは［D］の時代です。自分とは違う人を排除したり、ある事柄について賛成派と反対派がお互いを罵り合ったりするような事態が、世界規模で進行しています。

③「地図より羅針盤を持て」という言葉があります。地図は、確かに持っていると安心です。いま自分がどこにいるのかを確認することができるし、これから何が起こるか予測するのを助けてくれます。

けれども混沌とした社会に向き合うときは、地図を作ることはかえって危険な場合があります。分かりやすい構図のもとに状況を整理しようとして、この人は味方、この人は敵、などと違いばかりを強調することになるからです。地図は、［E］を加速させてしまう可能性があるのです。

そうではなく、羅針盤に従うことが重要なのではないか、と思うのです。問題は、目先の道が左か右かということではない。自分が、そして社会が、最終的に目指したい方向はどっちなのか。仮に見通しが悪くとも、正しい方向を大局的にとらえ、混沌に翻弄されながらもそちらに向かって進んでいくこと。この言葉はその重要性を説いていると、私は理解しています。

（伊藤亜紗「女子学生たちへ」『新・大学でなにを学ぶか』所収　岩波書店）

＊1　トリビアルな…とるに足りない。

＊2　標榜…主義、主張などをかかげること。

＊3　フェミニスト…女性の権利を拡張するため活動する人。

＊4　アクティビスト…政治、社会を変えようと活動する人。

問一　筆者は大学で学ぼうとしている人にどのようなことを求めていますか。その説明として適切なものを**ア**～**エ**から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　まだまだ発展の途上にある社会を改善していくために、勉学にはげみ社会にひそむ問題点を積極的に探り出していき、ゆくゆくは人々を主導するような立場について完璧な世界を成立させる努力をしていくこと。

イ　世界のルールは書き換えることが可能であるという感覚をたくさんの人々と共有し、インターネットを利用して目の前にいない人とつながりを持ちながら、社会の仕組みやルールを前向きに直し続けていくこと。

ウ　どうしたらもっと世界をよりよいものにできるか、そのために自分は何ができるかという問題意識を持ち続け、多くの人々と自由で活発な議論をすることを通じて、偏りや排除のない公平な社会の形成を目指していくこと。

エ　社会は完全なものではないという認識を持ち、生活の中で違和感を覚えたら、自分にできる範囲でそれを解消する努力を、社会をよりよく作り変えるために、また人々の考え方を変えていくために自分から行っていくこと。

問二　[A]・[B]・[C]に入ることばの組み合わせとして適切なものを**ア**～**エ**から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　A　たとえば　B　つまり　C　実は
イ　A　たとえば　B　なぜなら　C　ところが
ウ　A　あるいは　B　つまり　C　そして
エ　A　あるいは　B　なぜなら　C　ちなみに

問三　ぼう線部①「ウィキペディア」を筆者はどのようなものと捉えていますか。その説明として適切なものを**ア**～**エ**から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　専門的な知識を持っているかどうかを問わずみんなが記事を書くことができることが災いし、誰の興味も引くことがない記事があふれているもの。

イ　執筆することも編集することも自由な場だが、執筆者と読み手のほとんどが男性であるために、男性の興味を引く記事だけが存在しているもの。

ウ　誰でも自由に執筆や編集ができる場ではあるが、女性の参加割合が低いため、一般的な関心の傾向をきちんと反映しているとは必ずしも言えないもの。

エ　立場や性別を問わず誰でも書き込むことができ、結果として常によりよいものに記事が作り変えられているため、非常に便利で参考になるもの。

問四　ぼう線部②「哲学への不信」の説明として適切なものを**ア**～**エ**から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　人間にとっての普遍的な問題を全て等しく扱ってきた学問が哲学であると信じていたが、実際には社会的地位の低かった女性に対する差別が当たり前のように行われていたことを知り、哲学の公平性を信じることができなくなっている。

イ　全ての人間に関わる問いを究めていくように見えて、実は女性の出産経験をほとんど語ることがなかったことから、哲学が考察の対象とする人間からこぼれる存在があるのではないかと考え、哲学の普遍性というものに疑問を持っている。

ウ　人間誰しもが経験することを深く考え抜くのが哲学の伝統であったが、哲学者のほとんどが男性であったことから、女性の経験についての考察が不足しがちになり、結果として学問としての浅さが生じたことに対して憐れみの気持ちを持っている。

エ　哲学の文献を読む中で、人類の約半数を占める女性が経験する出産についての考察が不足しているという思いが深まり、哲学には一人ひとりの人間の具体的な経験に対する理解が足りていないのではないかという疑念を持つようになっている。

問五　**D**・**E**に共通して入ることばとして適切なものを**ア**～**エ**から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　共存　　**イ**　分断　　**ウ**　未知　　**エ**　変化

問六　ぼう線部③「地図より羅針盤を持て」という言葉に筆者が注目する理由として適切なものを**ア**～**エ**から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　最終的な目的を共有して一丸となって世界の方向性を考えていかなければならない現代社会においては、まず自分たちの状況を把握するための見取り図の存在が欠かせないから。

イ　分かりやすい構図のもとに状況を整理しようとして違いばかりを強調するよりは、混沌に振り回されながらもその都度その都度正しいと思われる方針を探っていく方がまだましだから。

ウ　これから何が起きるか分からない混沌とした世界では、分かりやすく状況を整理することではなく、今後どのような形に社会を作り変えていくべきかという指針が重要になるから。

エ　混沌とした状況の中で社会の見通しが得られず、人々が正しい方向を捉えられない今の世界では、分かりやすく現状の整理をすることで将来を予測し安心を得ることが重要だから。

4 次の問いに答えなさい。

問 「笑い」にはどのような意味や効果がありますか。一四〇字以上、一五〇字以内であなたの考えを書きなさい。

注意事項(じこう)

・解答らんの一マス目から書きなさい。
・句読点や記号が一番上のマス目に入ってもよいものとします。
・記号も一字とします。
・漢字で書けるものは漢字で書くようにしなさい。

03—J—①

令和三年度　中学入試　第一回

国語　解答用紙

東洋大学京北中学校

受験番号

氏名

1

問一		問二	問三
(1)		(1)	(1)
(2)		(2)	(2)
(3)		(3)	(3)
(4)		(4)	

合計

2

問一	問二	問三	問四	問五	問六

3

問一	問二	問三	問四	問五	問六

4

150							
140							

1　2　3　4

03—J—①

令和三年度 中学入試 第一回 国語 解答用紙

東洋大学京北中学校

受験番号	氏名

1 各2点

問一 (1)	問一 (5)	問二 (1)	問三 (1)
エ	エ	エ	ウ

問一 (2)	問一 (6)	問二 (2)	問三 (2)
ウ	イ	ウ	オ

問一 (3)	問一 (7)	問二 (3)	問三 (3)
ア	ア	エ	コ

問一 (4)	問一 (8)	問二 (4)
イ	ウ	イ

1 30

2 各5点

問一	問二	問三	問四	問五	問六
ウ	ウ	ア	イ	エ	イ

2 30

3 各5点

問一	問二	問三	問四	問五	問六
エ	ア	ウ	イ	イ	ウ

3 30

4 10点

設問の特性上、解答例なし

4 10

会計